



「バランスを保って行なう」のと
「バランスを変えずに行なう」のは
チョツとちがう

一生懸命勉強したり、働いたり、スポーツなどをすることは良い事だが、度を過ぎると、体を壊したり、周りに迷惑をかけることがある。

お医者さんに診てもらおうと「バランスを考えて行なって下さい」と注意される。

バランスを取るのは大変だが、バランスが崩れると、問題も生じてくる。

自分ひとりのことであれば、ある程度気が付くことも多い。

長時間アタマを使っていると、体を動かしたくなるし、肉体労働が増えてくると、本でも読みたくなってくる。

しかし、人間は一人だけで生きているわけではなく、他人との関係の中でバランスを考えて生きていかななくてはならない。

「仕事と家庭」のバランスを考えて、仕事に明け暮れてくると、家庭サービスもと精を出す。会社の上司や同僚などの人間関係では、なるべくバランスを取って、広く浅く、敵？を作らない様にと気を配る。部下との人間関係は一層バランスに注意が必要となってくる。

しかし同じような環境が続いてくると、ある程度バランスの取り方がわかってきて「バランスを変えないように」行なうのだが、それでもしばらくすると、やっぱり問題が生じてくる。

人間関係というのは、相手との関係なので、相手の状況でバランスの取り方も変わらざるを得ないものらしい。

問題が生じて一番困るのは、自分自身に失敗感や挫折感を感じることである。そして問題を解決することよりも、どうしてバランスが崩れたんだろうなどと、後悔してしまうことである。

ところが先日、テレビで面白い発見をした。ロボットを二足歩行させようと懸命になっている研究者の話で、そこで一番問題となっていたのは、ロボットがすぐにバランスを崩して倒れてしまうというものだった。失敗の連続の中、町を歩いているとき、石にけつまずいて倒れそうになりながら、体勢を立て直して歩いていった人を見て、ハタと気がついたという。それは「歩くという行為は、バランスを崩すことだ」というものだった。人間が歩くとき、バランスを前へ倒して右足を出す。そしてまた左足を出すというようにバランスを崩すということを繰り返して歩いているらしい。そこで研究者は発想を転換して、バランスを崩さないロボット作りから、バランスが崩せるロボット作りへと転換したら歩くロボットができたと言っていた。

「バランスを保って」歩くというのは、バランスを崩しては立て直す、ということの連続らしい。

また、バランスを変えないでいると、問題は生じないかもしれないが、どこにも進んでもいないのではないだろうか。

バランスを変えずに、無理に進もうとすると、初期のロボットのように倒れてしまうのかもしれない。

バランスを取ることに懸命になっていると、バランスが崩れることを恐れるようになる。そして問題が生じることに対しても悪いことのように感じてしまう。

しかし、何の問題もなしに次々と道が開けていくとも思えない。

ここは、私も研究者に倣って発想を転換し、バランスを崩しては前へ進むようにしようと思った。問題が出てきたときは、失敗したのではなく、進んでいるという成功の証として次の足を踏み出せば、遠足気分で歩いていけるのではないだろうか。